

校訓	盡 己	令和2年度学校通信 「松崎中だより」 第13号	発行日	令和3年1月15日
教育目標	すべてのことに全力で取り組む生徒の育成 「一生懸命勉強する」「優しい心を持つ」「感動する」生徒の育成		発行者	伊丹市立松崎中学校 校長 佐藤 幸宏

令和3年1月15日 防災訓練 メッセージ

平成7年1月17日5時46分、阪神淡路大震災が発生しました。6,434人の尊い命が失われたマグニチュード7.3の地震とはどのようなものだったのでしょうか。阪神高速道路は横倒しに、神戸市長田区は一面焼け野原になりました。伊丹では、阪急伊丹駅が全壊し駅派出所勤務の警察官が亡くなりました。



また、市内ほとんどの学校の体育館や教室が地域の方の避難所となりました。

私達のように、この震災を経験した者にとっては、当時の教訓を後世に伝える使命があります。きっと、皆さんのご家族の中にも同様に思われる方はたくさんいるはずです。

一番心に残っていること、それは震災後に人と人々が支え合い、助け合う姿があらゆる場所にあったことです。多くの人がボランティアとなり、食べ物の炊き出し、生活物資や水の配給など率先して行いました。このときほど人との絆・温もりを感じたことはありません。

本日の防災訓練は、地震を想定し避難の仕方や経路を確認することで被害を最小限にするために行うものですが、この時期に行う意味は、「命の尊さ」を実感し、「人との絆」を再確認するためもあるのです。

あれから26年、瓦礫と化した街並みも元に戻り、当時を思い起こすのは、慰霊碑や記録文面、追悼のための行事でしかありません。去年は中止となりましたが、神戸のルミナリエは、震災で亡くなられた方々の霊を慰め、ここでの教訓を忘れないために行われているのです。

この機会を通して災害と正しく向き合い、万が一の時にも落ち着いて行動でき、周囲の人の命をも救える人になってほしい。また災害が起きたときは、常に家族が一緒にいるとは限りません。「どここの避難所に集まるか」「非常用持ち出し袋をどこに置くか」「連絡体制をどうするか」など、家族で話し合っておくことも重要です。

こうした行動が、これまでの災害で犠牲となった方々のご冥福をお祈りすることに、そして自分の身を、命を守ることに繋がるのです。これからの絆をつくるためにもしっかりと考えていきましょう。